

脳卒中・心臓病等 総合支援センター

■ スタッフ

科長（センター長）
副科長（副センター長）

土肥 薫
鈴木 秀謙
新堂 晃大
百崎 良

6名
3名
1名
1名
1名
3名
1名

医師 併任
看護師
理学療法士
作業療法士
言語聴覚士
社会福祉士
公認心理師

■ センターの特色

本センターは県と地域の医療機関が連携し、脳卒中や心臓病の患者さん・ご家族にとって包括的な支援体制の充実を図ることを目的とし、入退院を問わず相談支援、発症時の症状や治療内容、退院後の生活指導など再発予防を含めた情報提供・普及啓発活動に取り組んでいる。

1. 当センターで行っている支援

- 脳卒中・心臓病患者・家族の相談支援窓口の設置
- 療養上の意思決定や問題解決、アドバンス・ケア・プランニング等に関する情報提供
- 地域住民を対象とした、脳卒中・心臓病等についての予防も含めた情報提供、普及啓発（パンフレットなどの資料の開発・提供）
- 地域の医療機関、かかりつけ医を対象とした研修会勉強会等の開催

2. 支援体制

- 病院長、総合サポートセンター長、各診療部長の協力のもと、血管ハートセンター長が中心となって実施しており、県や市町、関係機関と連携・協力しながら、オール三重で事業を進めることで、保健、医療及び福祉に係るサービス提供体制の充実を図っている。本院では、医師、看護師、ソーシャルワーカー、公認心理師、医療通訳、事務職員など多職種で

構成されたチームである総合サポートセンターを循環器病患者・家族の相談支援窓口と位置づけ、病院内や地域の関係機関と連携して早期から患者・家族等に対して相談支援を行っている。

■ 活動実績

1. 相談窓口の実績

- 入院前の患者へ、現在の疾患管理状況の把握と生活指導を行った。相談内容に関しては、在宅医療に向けた介護保険の申請方法の説明や、社会保障の取得に向けた相談をMSWや看護師、福祉担当の事務を中心に対応した。脳卒中患者に関しては、窓口対応スタッフが脳卒中相談支援員の資格を取得し、患者の状況に応じた患者相談を受けている。
- 各診療科と他部門（緩和ケアセンターや小児・AYAがんトータルケアセンター・血管ハートセンターなど）とも連携を図り、治療に向けた患者の心理的サポートやアドバンス・ケア・プランニングの支援も実施した。外来では入院中に行っている心臓リハビリカンファレンスの内容や脳神経外科・循環器内科・脳神経内科合同カンファレンスの内容を元に、病棟で実施している退院指導のパンフレットの理解について再確認し、退院後の実際の生活状況を聞き取り、困りごとなどの対応や、生活指導に努めている。
- 心不全患者の自己の健康管理や、早期の医療機関受診につなげる取組みである「心不全管理アプリ（ハートサイン）」の使用状況の確認、使用時の困りごとに対応した。
- 再入院が決まっている患者についてはセンターで支援した内容を、入院当日に病棟看護師とカンファレンスを行い必要な情報共有を行っている。

支援患者数

対象		人数
新規患者数		594人
（新規患者数の内訳）	成人	366人
	小児（18才未満）	228人
延べ患者数*		1136人
（延べ患者数の内訳）	成人	908人
	小児（18才未満）	228人

支援内容

相談内容	件数
1. 医療連携・地域連携パス	503件
2. 地域包括ケアセンターとの連携	3件
3. リハビリテーション（外来含む）	11件
4. 心理サポート	7件
5. 両立支援（仕事・就労・復職）	16件
6. 両立支援（就学・復学支援）	1件
7. 緩和ケア（アドバンス・ケア・プランニングを含む）	5件
8. 疾病情報の提供（予防・診断・治療等について）	126件
9. 医療・介護・障害福祉の連携に有用な社会システムの提供	139件
10. 経済的問題（または不安）への支援	20件
11. 障害者手帳認定の支援	42件
12. 家族支援	9件
13. 患者会・家族会との連携（ピアサポート）	0件
14. 訪問診療・訪問看護または在宅療養	7件
15. 主治医やかかりつけ医への不満	3件
16. その他	244件

2. 循環器病の緩和ケア実績

- 専従の緩和医療専門医（HEPT 修了）、精神科医、緩和ケア認定看護師、公認心理士、理学療法士などからなる緩和ケアチームが活動している。疾患や病期によらない専門的緩和ケアを提供し、プライマリチームによる対応困難時のコンサルテーションが可能な緩和ケアの提供体制を構築している。患者・家族からの直接相談も受け対応した。
- 循環器内科医（HEPT 修了）が専任メンバーに加わり、緩和ケアニーズの把握・情報共有・協働を行って循環器疾患患者と家族への専門的緩和ケアが提供できるよう活動の拡充を図った。
- 「つらさと苦痛の包括的アセスメント」として院内すべての入院病棟において共通の「生活のしやすさ質問票」を使って緩和ケアニーズのスクリーニングを実施し苦痛を拾い上げ、運用ルールに従って緩和ケアチームや必要な相談支援につなげている。

3. 小児期・若年期から配慮が必要な循環器病の対応実績

- 小児循環器は全国に先駆けて先天性心疾患及び小児期・若年期から成人期（妊娠、出産を含む）までのシームレスな循環器病に対する診療支援を行っており、脳血管障害を含む、循環器病合併妊娠の管理やモヤモヤ病や先天性心疾患を合併した女性患者の妊娠前カウンセリングを成人先天性心疾患外来と共に実施した。MSW や公認心理士がカンファレンスに参加し、入院中も必要時、在宅療養の準備や心理的サポートを行った。

4. 地域の医療・福祉機関との連携実績

- 脳卒中連携パスカンファレンス開催 2回
（三重大学医学部附属病院と津市内回復期病棟を有する3病院が参加）
- 三重脳卒中医療間連携カンファレンス 2回
（三重県内医療機関が参加）
- 三重県脳卒中医療連携研究会 1回
（急性期病院9施設、回復期病院11施設が参加）
- 第1回 三重県脳卒中相談連絡協議会 開催
- 地域連携研修会開催 6回
- 市民公開講座開催 4回
- 東海心血管エコーセミナー
- CADASIL 市民講座
- 三重大学リハビリテーション臨床研究学習会
- バーチャルリハビリテーション栄養学会
- 三重大学緩和ケアセミナー2023
「心不全の緩和ケアセミナー」
- 学校心臓健診講演会 2回
- 地域医療機関・かかりつけ医を対象としたセミナーや連携会議の開催 7回

5. 地域への周知活動

- 心臓病等津市の健康まつりに参加し、来場者にパンフレットや予防啓発の資料配布を実施。（延べ283名に対応）
- 世界脳卒中デーに合わせて、当院と伊賀上野城をテーマカラー（インディゴブルー）でライトアップし、啓発活動をおこなった。
- 県と共働し、イオンモールで一般市民へのセンター周知活動を2回実施した。（イオンモール明和・イオンモール東員）各回約300部のパンフレットの配布と、医師による健康相談を計34名の方に実施した。

■ 今後の展望

三重県・各市町村、関係機関が連携・情報交換を行う機会を作り、それぞれの医療圏で行われている連携システムとの連携を通してオール三重で事業を進めていく。三重県循環器病対策推進計画の元、循環器病の医療を提供する病院間の診療連携体制を確保し、包括的な支援体制の充実強化を図るため、「三重県脳卒中・心臓病等総合支援センター連絡協議会」の設置を検討している。

また当院はがん診療連携拠点病院であり自施設だけでなく、二次医療圏や県全体での緩和ケア提供体制の整備・連携の仕組み作りを進めていく。

当センターのホームページや動画、チラシ作成脳卒中・心不全療養相談士の拡充を通してセンター活動の周知を行い、患者・家族への日常生活指導や予防啓発の拡大につなげていく。

また、両立支援においてもセンター内に専任の両立支援コーディネーターを配属し両立支援に対する活動拡大を目指す。

[▶ https://www.sv.hosp.mie-u.ac.jp/noushin-center/](https://www.sv.hosp.mie-u.ac.jp/noushin-center/)